

2025
May
5

プレイドライブ

MOTORSPORT MAGAZINE
PLAYDRIVE

石澤一哉 BC1クラス 初優勝!

全日本ジムカーナ選手権



新たな挑戦へ 今シーズンに挑む4人の巧者たち

2025年全日本ラリー選手権開幕戦に
NEWマシン登場

WRCに学ぶ

公式文書を徹底解説!
WRCで実際に行われた裁定をもとに
ラリー規定を学ぶ

好評連載コラム

鎌田卓麻(ラリー&ダートトライアル)
保井隆宏(ラリー)
若林拳人(ジムカーナ)

連載 清水和夫 YARIS HEVのレーシング・テクニク研究

早くも第2弾!

コ・ドラはつらいよ。フーテンのやっちゃん
理系ですが、なにか!? 編

今 年で30周年を迎えるモーター
スポーツ無線協会「MoSRA」。
サーキットやラリーなどの競
技を運営するオフィシャルを筆頭に、
現在ではSUPER GTやスーパ
フォーミュラでは各チームでドライ
バーとピットの連絡に活用されてい
て、スーパフォーミュラでは日本
レースプロモーション（JRP）が、
チーム無線の音声聞くことができ
る有料サービスも行っている。

ラリーでは、オフィシャルの連絡
用にMoSRAが導入されてから25
年。スタート、各ラジオポイント、
フィニッシュで競技車の通過確認を
行うSOSトラッキング、HQと各
ステージのコマンダーとの連絡、O
カーやOOカー、スイーパーとHQの
連絡用など、ラリー競技の安全性確
保のためにMoSRAは欠かせない
存在となっている。

そのMoSRAも、山の地形や建
造物、ステージまでの距離、天候な
どにより電波状況の悪化し、
ステージ内でのトラッキングやHQ
との通信困難地帯の解消は大きな課
題となっていた。そこで、この通信
困難地帯への対応策として、JMRC
全国ラリー振興事業委員会が主体
となり、JCVケンウッドとソフト
バンクの協力により、スターリンク
に代表される衛星経由のインターネ



スターリンク本体と付
属のルーター、ポータ
ブル電源、JVCケンウ
ッドが開発したRoIPが
システムの一式となる。



HQにも同様のシステム
を構築。無線で通話す
ると自動的にRoIPからス
ターリンク経由で送信先
の音声通信を行う。

共同でシステムを開発したソフトバンクとJVC
ケンウッドの皆さんと、MoSRAの田中局長、
JMRC全国ラリー振興事業委員会の宮城氏。



PD Headline 2

MoSRA with Starlink 無線の通信困難地帯の対策

JMRC全国ラリー振興事業委員会と
MoSRAとJVCケンウッドとソフトバンクが
ラリーに向けた新たな通信システムを実験

Text & Photo : PLAYDRIVE (編集部)

ット通信を利用して、ラリーフィ
ールドでの無線通信を、インターネッ
トを利用した音声通信（VoIP）
ボイス・オン・インターネット・プ
ロトコル）で遠隔地に送る技術を試
験開発している。

このスターリンクを利用した通信
システムの構築は様々なケースが考
えられるが、基本的にはステージ内
で最も無線の感度が高い場所に設置
されるリピーター（中継所）にこの
システムを導入させ、まずはステ
ージ内で行われる無線の音声通信がス
ターリンク経由となることで、これ
まで通信困難、または気象条件など
によって受信感度が低くなる場所
でも円滑な通信が可能となる。また、
HQとステージとの通信も同様で、
これまでは直接HQとは通信するこ
とができなかったラジオポイントでも、
リピーターに設置したスターリンク
システムを介して直接通信すること
も可能とのことだ。

まだ試験段階ということだが、全
日本ラリー選手権第1戦ラリー三河
湾では、実用に向けたテスト運用を
SSS西浦シーサイドロードのレッ
キヤSS9/12で行い、成果を得
ることができたという。MoSRA
通信をVoIP経由で送信する新
なシステムが、ラリーの安全をより
高めることに期待したい。